

国内出張報告書

2015 年 6 月 25 日提出

氏名	西森 朝美
所属	大学院獣医学研究科 感染症学教室
学年	博士課程 1 年
出張先	長崎大学 熱帯医学研究所
出張期間	2014 年 6 月 7 日～9 日
目的	施設見学および長崎大学リーディングプログラム生との交流

活動内容（2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい）

2015 年 6 月 8 日、前後を移動日として長崎県長崎市を訪れ、長崎大学医学部の付属研究所である熱帯医学研究所（熱研）を訪問した。同大学では、「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を実施しており、熱帯地域に蔓延する感染症および新興感染症についての幅広い知識・技術の教育と国際的人材の育成を行っている。今年 2 月には、長崎大学から数名の学生が北海道大学を訪問しており、今回はその反対として北海道大学から熱研への訪問となった。



写真 1. 長崎大学熱帯医学研究所
医学部坂本キャンパス内に位置する

到着後、まずは原虫学分野教授である金子先生から長崎大学博士課程リーディングプログラムについて説明を受けた。長崎大学のリーディングプログラムは今年で 3 年目であり、1 学年 15 人の定員を設けているため、約 50 名の大学院生が所属している。驚くべきは留学生の割合であり、北大でも約半数の大学院生が留学生であるが、熱研では 7 割以上が海外からの学生である。これは、マラリアなどの熱帯病が国外の学生にとってより身近な問題であり、研究対象として注目されていることを示唆しているのかもしれない。また、熱研では北大のザンビア拠点のように、ベトナム・ケニアに研究拠点を設置しており、さらに中国やタイでも積極的な研究活動を行ってい

るという。北大の専門家養成コースと同様に、長崎大学でも 2 回の必修海外研修が設けられているが、研修期間はより長く 1 回目は 1 ヶ月以上、2 回目は 3 ヶ月以上の滞在が必要である。研究内容、海外拠点、海外演習など北大のリーディングプログラムとの類似点が多く見られた一方、主に採用人数の違いによる相違点が印象的であった。

続いて、長崎大学リーディングプログラムの必修授業（英語）を見学し、実際に授業に参加するとともに、授業を通して熱研の学生たちと交流した。今回一緒に参加したのは博士課程 1 年、2 年の学生たちで、北大メンバーを加えて総勢 30 人以上の授業であった。普段の英語の授業は多くて 10 人程であるため、大人数での授業は新鮮に感じた。授業内容はフリートーク形式の自己紹介から始まり、話した内容から互いを紹介し合ったり、グループを作って各々のキャリアパスについて議論したり、話すことに重点を置いた授業であった。今回はコミュニケーション中心の内容であったが、これまでの授業ではワークショップ形式で議論・発表したり、地域の小学生に「手洗い」について英語でプレゼンしたりと幅広い活動を行っており、特色のある面白い授業だった。



写真 2. “Communication skill”
授業を通して学生と交流を深めた

午後からは、熱研にある研究室および施設の見学と、長崎大学の学生・教員に向けて研究内容の発表を行った。研究室見学では 3 つの研究室を見学させて頂き、それぞれ原虫学分野の金子先生、ウイルス学分野の早坂先生、新興感染症学分野の浦田先生が案内してくださった。また、早坂先生にはウイルス学分野が使用する P3 施設のほか、小動物用の PET/SPECT/CT を保有するアイソトープ施設、および熱帯病に関するパネルや寄生虫・媒介昆虫などの標本を閲覧できる熱帯医学ミュージアム（熱研ミュージアム）についても説明して頂いた。熱研ミュージアムについては、実際に施設内を見学し、熱帯病に関する様々な知識を学ぶことができた。また、ミュージアムの一部には BSL-4 施設運用についての構想が示された区画があり、日本では未だ実現していない BSL-4 に分類される病原体を用いた研究に対する意欲が感じられた。施設見学の後、北大から参加した 5 名に加え、熱研の学生 2 名を含めた計 7 名が各々の研究内容についてプレゼンし議論

を行った。私は、牛の慢性疾患の 1 つである牛白血病ウイルス感染症をテーマとして、その病態と新規制御法確立に向けての取り組みについて、問題点を交えて紹介した。かなり獣医学領域に偏った内容であるため、医学、生化学、分子生物学領域を専攻する学生が多い中での発表は少々不安であったが、幸いたくさんの人に興味を持って聞いて頂けた。発表が終わった後、「良かったよ」と声をかけてくださる方もいて、プレゼンを行う上での大きな自信となった。獣医学部外で自身の研究を紹介することは、いかに分かりやすく伝えるか、より考え工夫するきっかけとなったので、今回の出張は良い機会であったと思う。

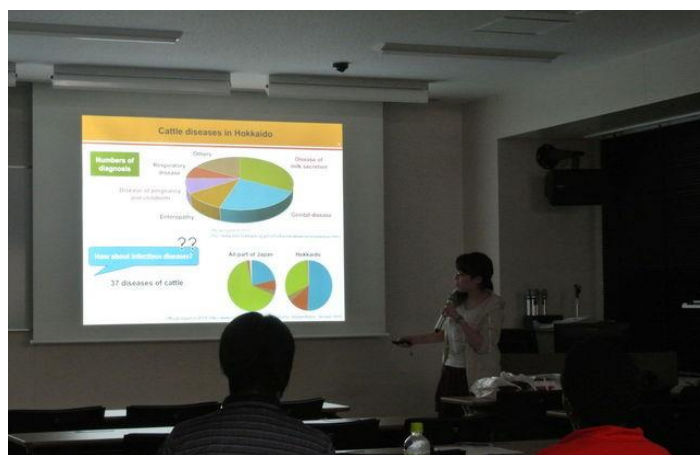


写真 3. 研究発表の様子
北大の **Progress** と同じ形式で行った

最後に、今回の出張では他のリーディングプログラム生との交流を通して、施設、研究内容、学生の意欲や英語スキルなど、多くの面で刺激を受けた。一方、長崎の学生からも同じく「刺激になった」という声があり、互いの得意分野を尊重し合う関係ができていたことがとても印象的であった。いわゆる T 字型の人材となるためには、今回の 2 大学の学生派遣のような外部との交流も有効な手段であると感じた。



写真 4. 集合写真
様々な国の生徒が所属している

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 北海道大学 大学院獣医学研究科 感染症学教室 教授 大橋 和彦 印
---------	---

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp